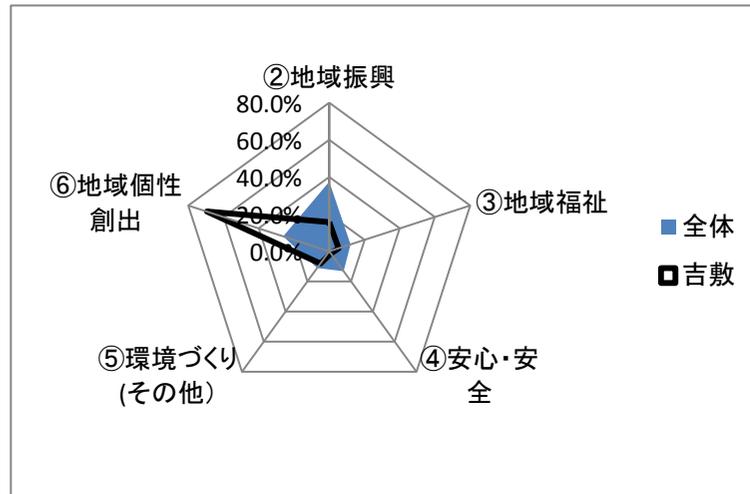


吉敷地区地域づくり協議会 地域づくり交付金事業概要(平成29年度)

■地域の情報

地域人口	14881人	自治会数	16
世帯数	6143世帯	自治会加入率	79.46%

※数値は、平成30年4月1日のもの



■決算状況

交付金配分枠	9,892,000 円
交付金決算額	9,886,678 円
その他収入	4,787,632 円
交付金決算額／配分額	99.9%

各分野の決算

①協議会運営	9,025,924 円
②地域振興	888,488 円
③地域福祉	298,871 円
④安心・安全	80,000 円
⑤環境づくり(土木工事)	0 円
⑤環境づくり(その他)	457,318 円
⑥地域個性創出	3,923,709 円
決算総額	14,674,310 円

■地域づくりの活動方針(テーマ)

吉敷地域のテーマである「笑顔あふれるふれあいのまち」の実現に向け、地域づくり関係団体の組織強化を図りながら、地域課題の解決のための事業を実施していきます。

平成29年度は、「地域福祉活動計画」と一体的に「地域づくり活動計画」を策定することから、地域住民や地域づくり関係団体とともに、様々な手法で地域課題を把握しながら、これらの解決に取り組んでいきます。

また、これからの地域づくりを担う人材を広く発掘するため「人材発掘に向けた交流事業」を実施して、多くの地域住民の参加が得られる事業の組み立てにつなげていきます。

■総括

今年度は第1次地域づくり計画が終了することから、地域住民や地域づくり関係団体とともに、様々な手法で地域課題を把握しながら、平成30年度からの新たなまちづくりの方向性を位置づける「吉敷まちづくり計画(第2次地域づくり計画・第3次地域福祉活動計画)」を策定しました。

吉敷地域の課題であった地域情報の発信については、地域住民と地域づくり関係団体等からの参画を得て新たに広報委員会を設立し、地域の情報の収集や発信に努めながら2年が経過しました。この間、地域広報紙やウェブサイトの充実に取り組むとともに、町内会・自治会未加入者にも広報紙を手にとっていただけるよう配布先の拡大などにも取り組みました。地域住民からは一定の評価が得られるとともに、今年度の山口県公民館報コンクールでは最高賞となる会長賞を受賞しました。

■分野別事業名

① 協議会運営	協議会運営
② 地域振興	ふれあいあいさつ運動、地域情報発信事業、成人式思い出づくり、地域づくり計画・地域福祉活動計画策定、人材発掘に向けた交流事業
③ 地域福祉	ふれあいスポーツ交流事業
④ 安心・安全	自主防災組織づくり
⑤ 環境づくり	カーブミラーの充実、交通安全施設の充実、ホタルが飛び交うふるさと吉敷
⑥ 地域個性創出	コミュニティ活性化事業、ふるさと伝承事業、広報活動、各種団体支援事業、旧出張所・公民館跡地利用、観劇鑑賞交流事業

■重点的に取り組んだ事業

①	事業名	地域づくり計画・地域福祉活動計画策定	決算額	249,141円
	目的	地域課題の把握と解決の仕組みづくり		
	実施内容	計画の策定にあたり、地域で活動する団体からのヒヤリング等を実施するとともに、住民座談会を3回、団体座談会を5回開催した。住民座談会では、地域の課題や困りごとなどを出していただき、団体座談会では、住民座談会で出された課題等を解決するための取り組みを話し合った。		
	実施時期	通年		
	参加人数	530人(座談会等)		
	成果	第2次地域づくり計画・第3次地域福祉活動計画の一体的な計画として、平成30年度から5年間のまちづくりの方向性を位置づける「吉敷まちづくり計画」を策定した。		
	評価	地域の課題や困りごとを把握するとともに、これらを解決するための取り組みを話し合うため、ヒヤリングや座談会など開催し、多くの住民の参画を得ることができた。		
今後に向けて	まちづくりの主役である地域住民にとってより身近で、計画を地域全体で共有していくため、町内会・自治会やまちづくり関係団体へ計画書を配布するとともに、地域住民へ計画書の概要版を配布する。地域広報紙やウェブサイトなども活用しながら、計画を広く普及・啓発していく。			
②	事業名	ふるさと伝承事業	決算額	1,221,000円
	目的	文化に着目した地域づくりの推進		
	実施内容	今年度新たに、文化による地域づくりを推進するため「文化振興協議会」を設置するとともに、地域散策ガイドブック「吉敷さんぽ」を活用した地域散策講座や郷土学習講座の開催、地域散策広域連携事業、古文書読書会、地域散策マップや史跡案内看板の設置などに取り組んだ。		
	実施時期	通年		
	参加人数	100人		
	成果	肥中街道散策バスツアーには、定員を上回る申し込みがあり好評を得た。昨年に引き続き、吉敷地域に残る「野村家」の古文書を教材とした「古文書読書会」を開催した。多くの方に吉敷地域を知り、散策していただくため、地域散策ガイドブック「吉敷さんぽ」の巻末に添付しているマップを看板として拡大設置するデザインを検討した。		
	評価	肥中街道散策バスツアーには、定員を大きく上回る申し込みがあり好評を得た。地域散策講座や郷土学習講座は、参加者が少ないため、今後、地域住民に対する周知のあり方や講座の内容について協議・検討を行うことが必要。		
今後に向けて	引き続き、多くの地域住民の参加が得られる地域散策講座や郷土学習講座、歴史等散策ツアーの開催などに取り組む。平成30年度には吉敷地域を散策するためのウォーキングコースを設定できるよう、協議・検討を始める。			
③	事業名	人材発掘に向けた交流事業	決算額	199,089円
	目的	地域づくりを担う人材の発掘		
	実施内容	地域の人材発掘のため地域交流センターと共催で実施する交流事業について、今年度は地域づくり協議会はアクティブエイジを、地域交流センターは若者を対象にそれぞれ担当した。若者対象の事業は、具体的な取り組みについて協議が進んだ。吉敷出身のプロサッカー選手である原川力選手の帰山に合わせて、子ども達との交流として「こどもドリームプロジェクト吉敷～Jリーガー原川力選手によるサッカー教室～」を開催した。		
	実施時期	通年、12月		
	参加人数	200人		
	成果	3年前から実施してきた交流事業は、昨年度から地域づくり協議会と地域交流センターがそれぞれ担当を持つことになり、今年度の具体的な成果はないが、平成30年度からの新たな取り組みについて協議が進んだ。プロスポーツ選手と子ども達との交流は、企画の段階から地域住民の参画が得られるとともに、サッカー教室当日もスポーツ少年団や中学校サッカー部員など多くの参加があり盛況だった。		
	評価	地域づくりを進めていくには、新たな人材を知ることが重要であり、そのきっかけとなる交流事業は地域づくりの中心的な事業の一つ。アクティブエイジの交流については、多くの住民を巻き込む具体的な事業の組み立てには至っていないが、若者の交流については、地域の耕作放棄地等を活用して、現役世代親子の参加を募り農業を体験しながら住民どうしの交流を促進する場を創出する企画について協議・検討を進め、平成30年度からの実施に向けた準備を進めるなど、一定の進捗がみられる。		
今後に向けて	引き続き地域交流センターと連携しながら、具体的な事業化を進めていきます。			